

商店街の活性化に関する研究 ()

- 大和田駅前中央商店街の現状 -

縄田文子*¹ 山本文恵*²

Study on the Revitalization of a Shopping Street (I) - Current Conditions of the *Owada Ekimae Chuo Shopping Street* -

Fumiko Nawata*¹, Fumie Yamamoto*²

Abstract

Previously, the authors have worked together with the shopping street business association to find ways to reinvigorate underperforming shopping streets (“*shotengai*”)

This paper presents a preliminary analysis of the results of a survey conducted by students of Osaka International University into the attitudes and impressions that students had regarding the *Owada Ekimae Chuo Shopping Street*. In addition, the questionnaire tries to identify those characteristics that make a shopping street attractive to students. This data will be essential for drawing up a future revitalization plan for the area.

キーワード

商店街、活性化、情報収集、アンケート調査

1. はじめに

わが国の経済は一部に回復の兆しを示す動きが現れているものの、依然として先行き不透明な状況が続いている。また、個人商店は長引く不況に加え、大規模小売店舗法の廃止をはじめとする各種規制緩和により、極めて厳しい経営状況に直面している。

個人商店の集合体である商店街がこの苦境を克服するためには、今一度商売の原点に立ち返り、地域の消費者ニーズの変化を把握し、彼らに適応した店づくりや商店街活動のあり方を創意工夫していくことが必要である。

筆者らはこれまで、地元商店街との連携を通して商店街活性化の一助とする取り組み¹⁾⁻³⁾

* 1 なわた ふみこ：大阪国際大学人間科学部教授

* 2 やまもと ふみえ：大阪国際大学人間科学部教授 2004. 9. 21 受理

を行ってきた。今回は、地域の消費者の一翼を担っている本学の学生を対象に大和田駅前中央商店街に対するアンケート調査を実施し、彼らが望む商店街像や商店街の改善点等を明らかにすることによって、街づくりや商店街の活性化に取り組まれている関係者の方々の活動基盤となるような情報の提供を行うことにした。

本稿（第1報）では、本学の守口キャンパスの学生による大和田駅前中央商店街の評価結果を報告する。

2. 大和田駅前中央商店街の概況

今回の研究対象である大和田駅前中央商店街は、昭和56年10月に京阪電鉄の大和田駅北側に大和田駅前中央商店街振興組合として設立された。

当商店街は平成15年7月1日現在、35店舗の個店から成り立っている（図1）。なお、これら35店舗の業種構成の内訳は、飲食店が15店舗（約43%）、家庭用品・日用品店が4店舗（約11%）、衣料品店が3店舗（約9%）、趣味/雑貨・書籍店が3店舗（約9%）、歯科・医院他が3店舗（約9%）、理/美容院・クリーニング店が2店舗（約6%）、コンビニエンスストア、菓子店、銀行、ホームサービス、娯楽（パチンコ）がそれぞれ1店舗である。

これらから、当商店街は飲食店優位型の商店街であるということがわかる。

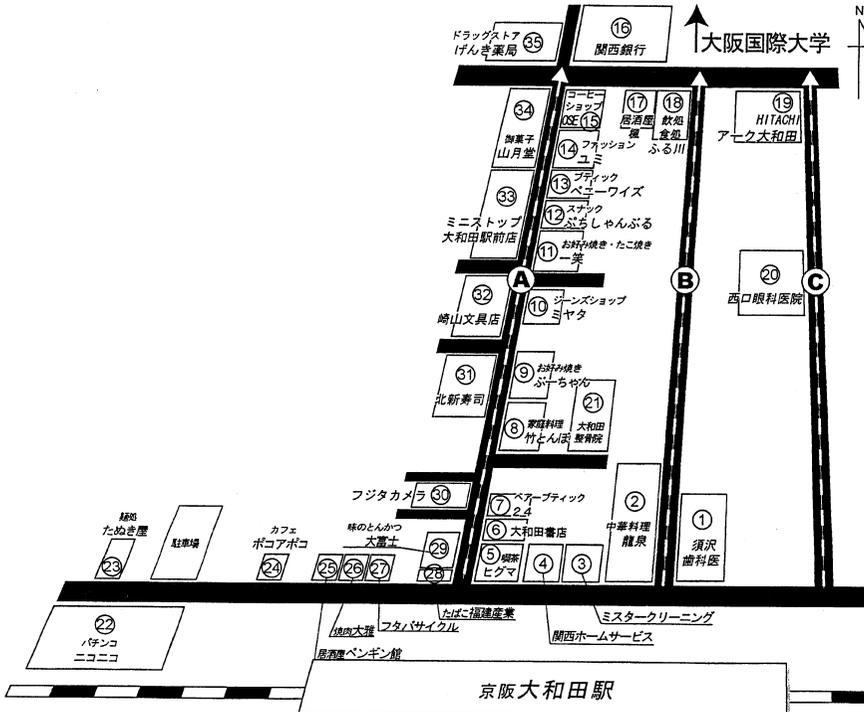


図1 大和田駅前中央商店街の概略（平成15年7月1日現在）

3. アンケート調査

1) 調査内容

大和田駅前中央商店街に対する本学学生の態度や意識を調査するために、以下の10設問からなる質問紙を作成した。すなわち、1) 基本属性について(3問)、2) 通学について(2問)、3) 大和田駅前中央商店街の利用状況について(2問)、4) 当商店街に対する要素別満足度について(28問)、5) 当商店街のイメージについて(20問)、6) 当商店街の長所について、7) 当商店街の短所について、8) 当商店街への要望について、9) 当商店街にあったらよいと思われる施設やサービスについて、10) 当商店街に対する全体的満足度について(1問)の設問である。

なお、4)の設問については5段階の評価で、また、5)の設問については7段階評価で、さらに6)~9)の設問については自由記述で回答を求める形式とした。

2) 調査対象および調査方法

大阪国際大学の守口キャンパス(人間科学部および大阪国際大学短期大学部)の学生を対象として、平成15年7月中旬から9月下旬にかけて配票留置法によるアンケート調査を実施した。なお、その際に回収したサンプルの有効件数は540件であった。

3) 調査結果の整理方法

収集したデータを整理するにあたり、まずアンケート項目別に単純集計を行った後、要素別および全体的満足度については平均点を求め、100点満点に換算した。

4. 結果および考察

1) 調査対象者の構成

(1) 基本属性

表1は調査対象者の性別とその割合を示したものである。表に示すとおり、女子学生が調査対象者の80%近くを占めているのに対して、男子学生は20%強である。

また、表2は調査対象者の生活形態とその割合を示したものである。彼らのうちの70%近くが親と同居しているのに対して、一人暮らしの者は25%強である。

さらに、表3は調査対象者の住所とその割合を示したものである。近隣の3市(守口市、門真市、寝屋川市)以外から通学している者が70%弱を占めているのに対して、3市からの通学生(合計)は約30%である。

すなわち、今回の調査対象者は大半が女子学生で、その多くが親と同居しており、かつ、近隣の3市以外から通学している者が多いということがわかる。

国際研究論叢

表1 性別

| | 件数 | 割合(%) |
|-----|-----|-------|
| 男 | 121 | 22.4 |
| 女 | 417 | 77.2 |
| 無回答 | 2 | 0.4 |
| 合計 | 540 | 100.0 |

表2 生活形態

| | 件数 | 割合(%) |
|-------|-----|-------|
| 親と同居 | 375 | 69.4 |
| 一人暮らし | 142 | 26.3 |
| 共同生活 | 19 | 3.5 |
| その他 | 4 | 0.7 |
| 合計 | 540 | 100.0 |

表3 住所

| | 件数 | 割合(%) |
|------|-----|-------|
| 守口市 | 51 | 9.4 |
| 門真市 | 67 | 12.4 |
| 寝屋川市 | 44 | 8.1 |
| 3市以外 | 368 | 68.1 |
| 無回答 | 10 | 1.9 |
| 合計 | 540 | 100.0 |

(2) 通学状況

表4は調査対象者の大和田駅利用状況とその割合を示したものである。この表から調査対象者のうちの60%強が京阪電鉄の大和田駅を利用していることがわかる。

また表5は、表4で大和田駅を「利用する」に該当した学生(338名)が大和田駅から利用する道とその割合を示したものである。大和田駅を利用する学生のうちの約52%が大学への通学に「B」の道を利用しているのに対して、「A」の道の利用者は40%弱、「C」の道の利用者は7%強である(「A」「B」「C」の道については図1を参照)。

すなわち、調査対象者の60%強が大和田駅を利用しているものの、彼らのうちで大和田駅前中央商店街のメインストリートともいえる「A」の道を通っている者は、「B」の道を通っている者の74%にとどまっている。

表4 大和田駅の利用状況

| | 件数 | 割合(%) |
|-------|-----|-------|
| 利用する | 338 | 62.6 |
| 利用しない | 195 | 36.1 |
| 無回答 | 7 | 1.3 |
| 合計 | 540 | 100.0 |

表5 大和田駅から利用する道

| | 件数 | 割合(%) |
|-----|-----|-------|
| Aの道 | 131 | 38.8 |
| Bの道 | 177 | 52.4 |
| Cの道 | 25 | 7.4 |
| 無回答 | 5 | 1.5 |
| 合計 | 338 | 100.0 |

2) 大和田駅前中央商店街の利用状況

表6は大和田駅前中央商店街の利用状況をまとめたものである。大和田駅前中央商店街を「よく利用する」と回答した者は調査対象者の10%に満たないが、「時々利用する」と回答した者と合わせると65%を超える。

なお、「利用しない」者(178名)が利用しない理由として挙げた内容をまとめたものが表7である。

商店街の活性化に関する研究 () - 大和田駅前中央商店街の現状 -

表6 大和田駅前中央商店街
利用状況

| | 件数 | 割合(%) |
|--------|-----|-------|
| よく利用する | 42 | 7.8 |
| 時々利用する | 313 | 58.0 |
| 利用しない | 178 | 33.0 |
| 無回答 | 7 | 1.3 |
| 合計 | 540 | 100.0 |

表7 大和田駅前中央商店街を利用しない理由

| 内容 | 件数 | 割合(%) |
|------------------|-----|-------|
| 通らないから | 81 | 41.8 |
| 行きたいと思うような店がないから | 56 | 28.9 |
| 最寄りの商店街や店を使うから | 11 | 5.7 |
| 時間がないから(急いでいるから) | 8 | 4.1 |
| 行きたくないから | 7 | 3.6 |
| お金がないから | 4 | 2.1 |
| つまらないから(魅力がないから) | 4 | 2.1 |
| 通学路としてのみ利用するから | 4 | 2.1 |
| その他 | 19 | 9.8 |
| 合計 | 194 | 100.0 |

大和田駅前中央商店街を利用しない理由としては、「通らないから」「行きたいと思うような店がないから」「最寄りの商店街や店を使うから」「時間がないから(急いでいるから)」という4つの理由で全体の80%以上を占めている。

なお、「通らないから」という理由の中には、萱島駅を使う、学校の近くに住んでいるというものが多くみられた。これらの理由は回答者と商店街との物理的(距離的)なへだたりによるものであるから、近隣の生活者を主要顧客としている当商店街としては対応が難しいかもしれない。しかし、「行きたいと思うような店がないから」「行きたくないから」「つまらないから(魅力がないから)」「通学路としてのみ利用するから」といった理由は、当商店街を通過している学生(潜在顧客)がいるにもかかわらず、当商店街が彼らのニーズに対応できていないことを物語っている。

そこで、大和田駅前中央商店街の利用状況を他の要因との関連からさらに詳しく分析してみたのが表8である。

表8 基本属性や通学ルートと商店街利用状況との関係

| | | 商店街利用状況 | | | | 合計 | |
|----------------|--------------|---------|------|--------|------|-----|------|
| | | よく利用する | | 時々利用する | | 件数 | (%) |
| | | 件数 | (%) | 件数 | (%) | | |
| 性別 | 男 (121件) | 9 | 7.4 | 58 | 47.9 | 67 | 55.4 |
| | 女 (417件) | 33 | 7.9 | 255 | 61.2 | 288 | 69.1 |
| 生活形態 | 親と同居 (375件) | 28 | 7.5 | 255 | 68.0 | 283 | 75.5 |
| | 一人暮らし (142件) | 12 | 8.5 | 80 | 56.3 | 92 | 64.8 |
| | 共同生活 (19件) | 2 | 10.5 | 6 | 31.6 | 8 | 42.1 |
| 住所 | 3市 (162件) | 12 | 7.4 | 87 | 53.7 | 99 | 61.1 |
| | 3市以外 (368件) | 30 | 8.2 | 120 | 32.6 | 150 | 40.8 |
| 「大和田駅」 利用状況 | 利用する (338件) | 30 | 8.9 | 217 | 64.2 | 247 | 73.1 |
| | 利用しない (195件) | 11 | 5.6 | 92 | 47.2 | 103 | 52.8 |
| 利用する道 | 「A」の道 (131件) | 22 | 16.8 | 89 | 67.9 | 111 | 84.7 |
| | 「B」の道 (177件) | 6 | 3.4 | 111 | 62.7 | 117 | 66.1 |
| | 「C」の道 (25件) | 1 | 4.0 | 17 | 68.0 | 18 | 72.0 |

ちなみに、表8には調査対象者の基本属性（性別、生活形態、住所）や通学ルート（大和田駅利用状況、利用する道）と商店街利用状況との関係をまとめている。なお、ここでは商店街を「よく利用する」と回答した者と、「時々利用する」と回答した者を合わせて、「商店街を利用している」者の件数とみなしている。

これによると、男子学生よりも女子学生の方が、また、一人暮らしや共同生活をしている学生よりも親と同居している学生の方が、そして、3市以外よりも3市に住んでいる学生の方が大和田駅前中央商店街を利用する割合が高いことがわかる。また、大和田駅を「利用する」者や通学に「A」の道を利用する学生の方が、「大和田駅を利用しない」学生や「B」「C」の道を利用する学生よりも当商店街を利用する割合が高いことがわかる（合計欄の網掛け部分を参照）。

表7において、大和田駅前中央商店街を利用しないのは「通らないから」という理由が1位に挙がっていたが、表8においても大和田駅を利用しない者の方が、また、「A」の道よりも「B」「C」の道を通る者の方が当商店街の利用割合が低いという結果がでており、表7の結果を裏付けるものとなった。

すなわち、大和田駅前中央商店街を利用する割合が高い学生は、当商店街の近隣（守口市、門真市、寝屋川市）に住み、親と同居している女子学生で、大和田駅を利用し、通学に「A」の道を使っている者ということになる。

次に、「よく利用する」者と「時々利用する」者（合計355名）が、今までに利用したことのある店（複数回答）を件数の多い順に挙げ、各店舗での平均客単価を示したのが表9である。

商店街の活性化に関する研究 () - 大和田駅前中央商店街の現状 -

表9 今までに利用したことのある店と平均客単価

| 店名 | 件数 / 355 | 客単価 (円) | 割合 (%) | (順位) |
|-------------------------|--------------------|---------|--------|------|
| 33 ミニストップ大和田駅前店 | 337 | 453 | 94.9 | 1 |
| 11 お好み焼き・たこ焼き 一笑 | 156 | 210 | 43.9 | 2 |
| 6 大和田書店 | 51 | 585 | 14.4 | 3 |
| 35 ドラッグストア 元気薬局 | 45 | 707 | 12.7 | 4 |
| 2 中華料理 龍泉 | 27 | 777 | 7.6 | 5 |
| 9 お好み焼き ぶーちゃん | 18 | 456 | 5.1 | 6 |
| 16 関西銀行 | 12 | - | 3.4 | 7 |
| 3 ミスタークリーニング | 10 | 770 | 2.8 | 8 |
| 22 バチンコ ニコニコ | 9 | 9,778 | 2.5 | 9 |
| 32 崎山文具店 | 9 | 344 | 2.5 | 9 |
| 20 西口眼科医院 | 7 | 1,643 | 2.0 | 11 |
| 28 たばこ 福建産業 | 6 | 478 | 1.7 | 12 |
| 27 フタバサイクル | 6 | 133 | 1.7 | 12 |
| 4 関西ホームサービス | 5 | 19,400 | 1.4 | 14 |
| 30 フジタカメラ | 5 | 1,316 | 1.4 | 14 |
| 25 居酒屋 ペンギン | 3 | 2,000 | 0.8 | 16 |
| 29 味のとんかつ 大富士 | 3 | 667 | 0.8 | 16 |
| 15 コーヒーショップ OSE | 3 | 167 | 0.8 | 16 |
| 34 御菓子 山月堂 | 3 | 100 | 0.8 | 16 |
| 26 焼き肉 大雅 | 2 | 17,500 | 0.6 | 20 |
| 7 ヘアブティック 24 | 2 | 1,000 | 0.6 | 20 |
| 31 北新寿司 | 2 | 1,000 | 0.6 | 20 |
| 23 蕎麦 たぬき屋 | 2 | 325 | 0.6 | 20 |
| 8 家庭料理 竹とんぼ | 1 | 3,500 | 0.3 | 24 |
| 21 大和田接骨院 | 1 | 700 | 0.3 | 24 |
| 17 居酒屋 楓 | 1 | 500 | 0.3 | 24 |
| 19 H I T A C H I アーク大和田 | 1 | 200 | 0.3 | 24 |
| 18 飲処・食処 ふる川 | 1 | - | 0.3 | 24 |
| 合計 | 728件 (一人当たり 2.05件) | | | |

(10%以上のものに網掛け)

355名のうちの約95%にあたる337名が「ミニストップ大和田駅前店」を利用しており、コンビニエンスストアの利用割合が圧倒的に高いことがわかる。なお、当該店で平均客単価は453円である。次いで、「お好み焼き・たこ焼き 一笑」「大和田書店」「ドラッグストア 元気薬局」「中華料理 龍泉」と続く。コンビニエンスストアは商品アイテムの多さが魅力であり、何でも一度に揃うという利便性のために学生たちはよく利用しているようである。2位以下の店に大差がついていることから、「ミニストップ大和田駅前店」は大和田駅前中央商店街の中にあって、学生の集客という点では一人勝ちをおさめている店であるといえる(ただし、当該店は平成15年10月末日をもって閉店した)。なお、上位の数店舗以外は学生の利用割合がかなり低いことから、大和田駅前中央商店街は学生の通学路に位置してはいるが、学生を十分に吸引できていないことがわかる。

参考までに、サンプル数は少ないが「よく利用する」と答えた者（42名）が、今までに利用したことのある店（複数回答）を挙げてみたのが表10である。

表10 今までに利用したことのある店（複数回答）

| 店名 | 件数 / 42 | 割合 (%) | (順位) |
|------------------|------------------|--------|------|
| 33 ミニストップ大和田駅前店 | 41 | 97.6 | 1 |
| 11 お好み焼き・たこ焼き 一笑 | 19 | 45.2 | 2 |
| 6 大和田書店 | 10 | 23.8 | 3 |
| 2 中華料理 龍泉 | 8 | 19.0 | 4 |
| 35 ドラッグストア 元気薬局 | 7 | 16.7 | 5 |
| 20 西口眼科医院 | 4 | 9.5 | 6 |
| 16 関西銀行 | 4 | 9.5 | 6 |
| 9 お好み焼き ぶーちゃん | 3 | 7.1 | 8 |
| 4 関西ホームサービス | 3 | 7.1 | 8 |
| 3 ミスタークリーニング | 3 | 7.1 | 8 |
| 29 味のとなかつ 大富士 | 2 | 4.8 | 11 |
| 26 焼き肉 大雅 | 2 | 4.8 | 11 |
| 25 居酒屋 ペンギン | 2 | 4.8 | 11 |
| 22 パチンコ ニコニコ | 2 | 4.8 | 11 |
| 7 ヘアアップティック 24 | 1 | 2.4 | 15 |
| 34 御菓子 山月堂 | 1 | 2.4 | 15 |
| 32 崎山文具店 | 1 | 2.4 | 15 |
| 30 フジタカメラ | 1 | 2.4 | 15 |
| 27 フタバサイクル | 1 | 2.4 | 15 |
| 合計 | 115 (一人当たり 2.7件) | | |

(10%以上のものに網掛け)

大和田駅前中央商店街を「よく利用する」者は、一人当たりの利用店舗数が2.7件になっており、表9の2.05件に比べて多いことがわかる。また、表9では利用割合が10%を越える店舗（網掛けされた店舗）が4店舗ほどであったが、表10では5店舗あり、しかも表9に比べて各店舗の利用割合がいずれも高いことがわかる。これらのことから、大和田駅前商店街を「よく利用する」者は、「ミニストップ大和田駅前店」以外の店も比較的広範に利用する傾向があることがわかる。

すなわち、大和田駅前中央商店街を「よく利用する」学生たちは、特定の店の利用頻度が上がるような利用の仕方だけでなく、新規の店を開拓していくような利用の仕方もしているといえる。

3) 大和田駅前中央商店街に対する満足度

表11は要素別満足度および全体の満足度（いずれも5段階評価）の平均値と、それらを100点満点に換算した結果を示したものである。これらのうち一番高得点であった項目は「店主・接客」であり、53.6点であった。一方、「制度・催し」は23.4点で評価が最も低いことがわかる（網掛け部分を参照）。

なお、商店街に対する全体の満足度は41.7点であり、全体的に見ても当商店街に対する満足度は低いといえる。

表11 要素別満足度と全体的満足度

| 項目 | 平均値 | 100点満点 | |
|--------|------|--------|------|
| 管理 | 2.53 | 38.2 | |
| 施設・設備 | 2.04 | 25.9 | |
| 制度・催し | 1.94 | 23.4 | |
| 営業・日時 | 2.92 | 48.1 | |
| 雰囲気 | 活気 | 2.31 | 32.8 |
| | 魅力 | 2.16 | 29.0 |
| | 親近感 | 2.72 | 42.9 |
| 絆の強さ | 2.40 | 35.0 | |
| 店主・接客 | 3.15 | 53.6 | |
| 商品 | 品揃え | 2.62 | 40.6 |
| | 魅力 | 2.14 | 28.4 |
| | 陳列 | 2.30 | 32.6 |
| | 価格 | 2.79 | 44.7 |
| 全体的満足度 | 2.67 | 41.7 | |

4) 大和田駅前中央商店街のイメージ

大和田駅前中央商店街について20対のイメージ用語を挙げ、7段階によるイメージ調査を行った結果をまとめたものが図2である。なお、この図はイメージ得点(平均)の高いものから降順にまとめている。

これによると、「平等な - 不平等な」の得点が4.12でかろうじてプラスのイメージ側にあるのに対して、それ以外は全て4点以下の評価となり、当商店街に対するイメージは総じてマイナスイメージ寄りであることがわかる。とくに「田舎っぽい - 都会的な」「地味な - 派手な」「さえない - いかしている」「年寄りじみた - 若々しい」という項目の得点は低く、学生たちは当商店街に対して非常に田舎っぽくて地味で、さえない、年寄りじみた商店街であるというイメージをもっていることがわかる。

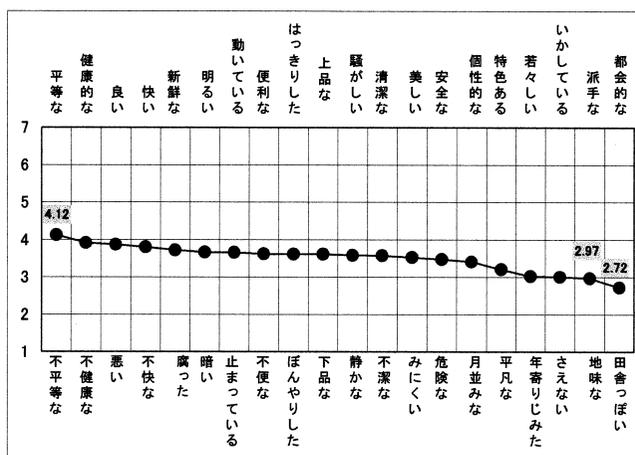


図2 大和田駅前中央商店街のイメージ

5) 大和田駅前中央商店街の長所

表12は大和田駅前中央商店街の長所についてまとめたものである。

長所として最も回答が多かったのは「業種構成」について(103件)で、次に「雰囲気」について(82件)、「店主・店員」について(51件)の順となっている。その他にも商店街の「立地」や「利便性」、商品の「価格」や「品揃え」などが挙がっており、合計で308件の回答があった。長所について回答をした者が271名であったことから、一人当たり1.1件(平均)の回答をしたことになる。

6) 大和田駅前中央商店街の短所

表13は大和田駅前中央商店街の短所についてまとめたものである(表の形式は長所の場合と同様)。

短所として最も指摘が多かったのは「街路」について(166件)で、次に「雰囲気」について(101件)、「外見」について(56件)、「自転車」について(44件)、「業種構成」について(43件)の順となっている。これら以外にも商店街の「規模」や「環境」「商品」など様々なものが散見され、合計で554件もの指摘があった。短所について回答した者が394名であったことから、一人当たり1.4件(平均)の指摘があったことになる。

先の長所の場合は合計で308件、一人当たり1.1件(平均)の指摘があったのに対して、短所の場合は合計で554件、一人当たり1.4件(平均)であることから、短所の方が先行していることがわかる。また、回答の内容が実に多岐にわたっていることから、学生たちは予想以上に大和田駅前中央商店街を直視し、冷静な評価をしているように思われる。なお、短所の内容については次に挙げる長所との比較を通してみていくことにする。

図3が大和田駅前中央商店街の長所と短所を比較したものである。横軸には項目(表12および表13で編掛けされている項目)をとり、縦軸にはそれらの件数をとっている。

まず、横軸上に短所のところで挙がった項目を件数の多いものから順(左から右)に配置し、それらの結果を棒グラフで示している。そして、その棒の右側には長所のところで

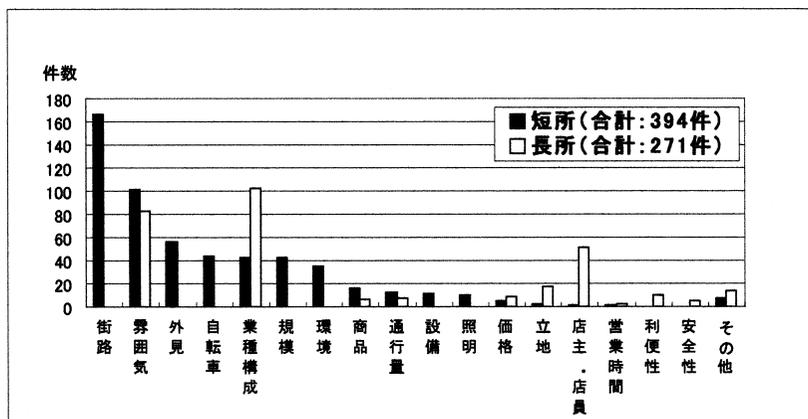


図3 長所と短所の比較

商店街の活性化に関する研究() - 大和田駅前中央商店街の現状 -

表12 長所(複数回答)

| 内 容 | 件数/271 | 割合(%) |
|-------------------------|---------------------|-------|
| 業種構成 | 103 | 33.4 |
| コンビニがある | 49 | 15.9 |
| 飲食店が揃っている | 23 | 7.5 |
| 色々な店が揃っている | 20 | 6.5 |
| その他 | 11 | 3.6 |
| 雰囲気 | 82 | 26.6 |
| 静かで落ち着く | 23 | 7.5 |
| 親しみやすい気軽な雰囲気 | 23 | 7.5 |
| 昔ながらの雰囲気 | 16 | 5.2 |
| 元気・にぎやか・活気がある | 14 | 4.5 |
| その他 | 6 | 1.9 |
| 店主・店員 | 51 | 16.6 |
| 元気・楽しい・明るい | 24 | 7.8 |
| 人情味がある・親切でやさしい | 15 | 4.9 |
| お客との間にコミュニケーションがある | 8 | 2.6 |
| その他 | 4 | 1.3 |
| 立地 | 18 | 5.8 |
| 大学に近い | 14 | 4.5 |
| 駅に近い | 2 | 0.6 |
| その他 | 2 | 0.6 |
| 利便性(便利である) | 10 | 3.2 |
| 価格(安い) | 9 | 2.9 |
| 通行量 | 7 | 2.3 |
| 人通りが多い | 5 | 1.6 |
| 人通りが少ない | 2 | 0.6 |
| 商品 | 6 | 1.9 |
| 安全性 | 5 | 1.6 |
| 歩いていても安全 | 4 | 1.3 |
| 車が通らないので安全 | 1 | 0.3 |
| 営業時間(早く開いて遅く閉まる) | 3 | 1.0 |
| その他 | 14 | 4.5 |
| 合 計 | 308件 (一人当たり1.1件) | |

国際研究論叢

表13 短所（複数回答）

| 内 容 | 件数/394 | 割合(%) |
|-------------------|---------------------|-------|
| 街路 | 166 | 30.0 |
| 道が狭い | 131 | 23.6 |
| 道が歩きにくい | 26 | 4.7 |
| その他 | 9 | 1.6 |
| 雰囲気 | 101 | 18.2 |
| 暗い | 48 | 8.7 |
| 活気・賑やかさが無い・さみしい | 31 | 5.6 |
| その他 | 22 | 4.0 |
| 外見 | 56 | 10.1 |
| 良くない(古い・汚い・悪い) | 37 | 6.7 |
| その他 | 19 | 3.4 |
| 自転車 | 44 | 7.9 |
| 自転車がなくて歩きにくい(危ない) | 38 | 6.9 |
| 自転車の放置 | 6 | 1.1 |
| 業種構成 | 43 | 7.8 |
| 若者向けの店がない・少ない | 39 | 7.0 |
| その他 | 4 | 0.7 |
| 規模 | 42 | 7.6 |
| 狭い | 35 | 6.3 |
| 店舗数が少ない | 7 | 1.3 |
| 環境 | 35 | 6.3 |
| 危ない | 16 | 2.9 |
| 変な人やホームレスが多い | 6 | 1.1 |
| その他 | 13 | 2.3 |
| 商品 | 16 | 2.9 |
| 欲しい物がない | 9 | 1.6 |
| その他 | 7 | 1.3 |
| 通行量 | 12 | 2.2 |
| 人通りが多い(危ない) | 11 | 2.0 |
| 人通りが少ない | 1 | 0.2 |
| 設備 | 11 | 2.0 |
| 駐輪スペースがない | 9 | 1.6 |
| その他 | 2 | 0.4 |
| 照明 | 10 | 1.8 |
| 暗い | 6 | 1.1 |
| 街灯が少ない(こわい) | 4 | 0.7 |
| 価格 | 5 | 0.9 |
| 高い | 4 | 0.7 |
| セールをしない | 1 | 0.2 |
| 立地 | 3 | 0.5 |
| 商店街の境界が分かりにくい | 2 | 0.4 |
| 店が密集している | 1 | 0.2 |
| 店員(接客態度が悪い) | 1 | 0.2 |
| 営業時間(閉まるのが早い) | 1 | 0.2 |
| その他 | 8 | 1.4 |
| 合 計 | 554件 (一人当たり1.4件) | |

挙がった各項目の件数を表示している(短所のところで出現した項目を基準にしているため、長所のところはデータのない項目が存在するし、棒の高さもまちまちである。なお、長所のところのみ出現した項目は、横軸の右端のところにつけ加えている)

この図から、「雰囲気」が短所と長所の双方に高い割合で出現している項目であるのに対して、「街路」や「外見」「自転車」などは短所のところのみ出現した項目であり、また「業種構成」や「店主・定員」などは長所のところで突出した項目であることがわかる。

ここで、長所と短所の双方に高い割合で出現している「雰囲気」の内容(表12、表13)をみると、一方で否定的に捉えられている内容が他方では肯定的に捉えられていることがわかる。次に、短所のところで突出した項目である「街路」や「外見」「自転車」などについてみると、いずれの項目も肯定的なもの(長所)が全くないことがわかる。とくに、「道が狭い」ことが短所だとする回答が非常に多いことや、商店街の「外見」の古さや汚さといったものが短所だとする回答が多いことに気付く。一方、「業種構成」が良いことや、「店主・定員」が楽しくて明るくやさしいこと、「立地」が良い(大学に近い)といったことが長所であるという回答が多いこともわかる。

7) 大和田駅前中央商店街への要望

大和田駅前中央商店街への要望として多かったのは、「学生向けの店(学生が魅力を感じるような店)を作って欲しい」や「店の種類を増やして欲しい」「道を広くして欲しい」「飲食店が欲しい」「商店街にもっと活気を持たせて欲しい・賑やかにして欲しい」「きれいで明るい商店街を目指して欲しい」といったものであった。

表14から学生たちは、学生向けの店(学生が魅力を感じるような店)を強く望んでいることがわかる。また、店の種類を増やしてほしいといった要望に加えて、飲食店が欲しいという要望が強いことがわかる。さらに、商店街の道を広くしてほしいという要望は他の設問の結果にも多数出現しており、学生の意見が強く顕在化していることがわかる。

これらの結果から、学生たちは学生街にふさわしい、賑やかで明るく活気のある商店街を望んでいる様子が見られる。

表14 要望

| 内 容 | 件 数 |
|------------------------------|-----|
| 学生向けの店(学生が魅力を感じるような店)を作って欲しい | 46 |
| 店の種類を増やして欲しい | 45 |
| 道を広くして欲しい | 39 |
| 飲食店が欲しい | 33 |
| 商店街にもっと活気をもたせて欲しい・賑やかにして欲しい | 32 |
| きれいで明るい商店街を目指して欲しい | 26 |
| 学生が利用しやすいような雰囲気にして欲しい | 19 |
| 自転車対策をして欲しい | 13 |
| 商店街を抜けても明るい街灯が欲しい | 10 |
| 治安を良くして欲しい | 8 |
| 歩きやすくして欲しい | 4 |
| 外観を良くして欲しい | 3 |
| 価格を安くして欲しい | 2 |
| サービス | 2 |
| 施設・設備 | 2 |
| 広々とした感じにして欲しい | 1 |
| イベント | 1 |
| もっと新しい商品を取り入れて欲しい | 1 |
| その他 | 15 |

8) 大和田駅前中央商店街にあったらよい施設・サービス

表15は、大和田駅前中央商店街にあったらよい施設やサービスとして挙げられたもの(2件以上のもの)である。なお、あったらよい店として挙げられたものの中には「業種」と「イメージ」とが混在していたので、表では両者を分けたうえで件数の多いものから降順に並べた。また、あったらよい施設・設備やサービスについても併記している。

この表から、「飲食店」や「アミューズメント」「コンビニエンスストア」「銀行・郵便局」「CD・本屋」などがあったらよいと思っている学生が多いことがわかる。中でも「飲食店」が圧倒的に多いことから、学生たちは他のいずれの業種よりも「飲食店」を強く望んでいることがわかる。なお、この「飲食店」というのは「ファーストフード」「カフェ・喫茶店」「ファミリーレストラン」「牛丼屋」「アイスクリーム屋」などの総称である。

また、あったらよい店のイメージのトップに「若者向けの店」という回答が挙がっており、次に、「気軽に入れる店」「オシャレな店」という回答が多かった。

さらに、あったらよい施設・設備としては「プリクラ」が最も多く、次に「駐車・駐輪場」「休憩場所」「公園」という回答が多かった。また、あったらよいサービスとして「学生割引」という回答が挙げられた。

これらの結果から、大和田駅前中央商店街の既存店が若者向きでないことや若者が気軽に入りにくいことなどがわかる。大和田駅前中央商店街が飲食店の多い商店街であるにもかかわらず、学生たちが飲食店を強く望んでいるということは、当商店街の飲食店が学生たちのニーズにほとんど対応できていないことを物語っている。

商店街の活性化に関する研究() - 大和田駅前中央商店街の現状 -

表15 あったらしい施設・サービス(複数回答)

| 業種 | | 施設・設備 | サービス | 件数 /273 | 割合 (%) | 累積 (%) |
|-------------|----------|--------|------|---------------------|-----------|-----------|
| 具体名 | イメージ | | | | | |
| 飲食店 | | | | 142 | 52.0 | 32.0 |
| アミューズメント | | | | 63 | 23.1 | 46.2 |
| コンビニエンスストア | | | | 21 | 7.7 | 50.9 |
| 銀行・郵便局 | | | | 17 | 6.2 | 54.7 |
| CD・本屋 | | | | 14 | 5.1 | 57.9 |
| | | ブリクラ | | 14 | 5.1 | 61.0 |
| | 若者向けの店 | | | 14 | 5.1 | 64.2 |
| | | 駐車・駐輪場 | | 12 | 4.4 | 66.9 |
| レンタルショップ | | | | 8 | 2.9 | 68.7 |
| 大型店 | | | | 8 | 2.9 | 70.5 |
| 洋服・バック・靴・帽子 | | | | 7 | 2.6 | 72.1 |
| 均一ショップ | | | | 7 | 2.6 | 73.6 |
| | | 休憩場所 | | 7 | 2.6 | 75.2 |
| 弁当屋 | | | | 6 | 2.2 | 76.6 |
| スポーツジム | | | | 6 | 2.2 | 77.9 |
| 駄菓子屋 | | | | 5 | 1.8 | 79.1 |
| バッティングセンター | | | | 5 | 1.8 | 80.2 |
| 飲み屋 | | | | 5 | 1.8 | 81.3 |
| | | 公園 | | 5 | 1.8 | 82.4 |
| マッサージ屋 | | | | 4 | 1.5 | 83.3 |
| 古本屋 | | | | 4 | 1.5 | 84.2 |
| スポーツ店 | | | | 4 | 1.5 | 85.1 |
| | | 外灯 | | 4 | 1.5 | 86.0 |
| | 気軽に入れる店 | | | 4 | 1.5 | 86.9 |
| | オシャレな店 | | | 4 | 1.5 | 87.8 |
| 雑貨屋 | | | | 3 | 1.1 | 88.5 |
| ドラッグストア | | | | 3 | 1.1 | 89.2 |
| | 大勢で楽しめる店 | | | 3 | 1.1 | 89.9 |
| | 安い店 | | | 3 | 1.1 | 90.5 |
| | | | 学生割引 | 2 | 0.7 | 91.2 |
| その他 | その他 | その他 | | 40 | 9.0 | 100.0 |
| 合 計 | | | | 444件 (一人あたり1.6件) | | |

5. おわりに

本学の学生を対象に大和田駅前中央商店街についてのアンケート調査を実施し、当商店街に対する学生の態度や意識について概観した。

今回の調査によって得られた結果を以下に示す。

- 1) 大和田駅前中央商店街を「よく利用する」者は、調査対象者の10%に満たなかったが、「時々利用する」者と合わせる65%を超えた。
なお、当商店街を利用しない理由としては、「通らないから」「行きたいと思うような店がないから」「最寄りの商店街や店を使うから」「時間がないから(急いでいるから)」といったものが多く、これらの理由が全体の80%以上を占めていた。
- 2) 当商店街を利用する割合が高かったのは、商店街の近隣(守口市、門真市、寝屋川市)に住み、親と同居している女子学生で、大和田駅を利用し、通学に「A」の道を使っている者であった。
- 3) 当商店街を利用している者(355名)のうちの約95%が「ミニストップ大和田駅前店」を利用しており、2位以下の店に大差がついていたことから、当該店は学生の集客という点では一人勝ちをおさめている店であることがわかった。また、当該店での平均客単価は453円であった。
- 4) 要素別満足度のうち一番高得点であった項目は「店主・接客」で、53.6点であった。一方、「制度・催し」は23.4点で評価が最低であった。商店街に対する全体的満足度は41.7点であり、全体的にみても当商店街に対する満足度は低かった。
- 5) 20対の形容詞を用いて分析した当商店街に対するイメージは、「平等 - 不平等」という項目を除いてマイナスイメージ寄りであった。被験者らは当商店街に対して田舎っぽくて、地味で、さえない、年寄りじみた商店街であるというイメージを強く抱いていることがわかった。
- 6) 当商店街の長所と短所を比較したところ、「雰囲気」に関するものが長所と短所の双方に高い割合で出現したのに対して、「街路」や「外見」「自転車」などに関するものは短所のところに、また、「業種構成」や商店街の「店主・店員」に関するものは長所のところに多く出現していた。
「雰囲気」の項目においては、否定的な内容のものと肯定的な内容のものが混在していたが、「街路」「外見」「自転車」の項目では肯定的な回答が全く見られなかった。とくに「道が狭い」ことや、商店街の「外見」の古さ、汚さが短所として指摘された。一方、「業種構成」が良いことや、「店主・店員」が楽しくて、明るく、優しいこと、「立地」がよい(大学に近い)ことなどが長所であるという回答が多かった。
- 7) 当商店街への要望としては、「学生向けの店(学生が魅力を感じるような店)を作りたい」「店の種類を増やして欲しい」「道を広くして欲しい」「飲食店が欲しい」「商店街にもっと活気を持たせて欲しい・賑やかにして欲しい」「きれいで明るい商店街を目指して欲しい」というものが多かった。これらのことから、学生たちは学生街にふさわしい、賑やかで明るい活気のある商店街を望んでいることがわかった。
- 8) 当商店街にあったらよい施設・サービスとして、「飲食店」や「アミューズメント」

「コンビニエンスストア」などが強く望まれていることがわかった。また、あったらよい店のイメージとして「若者向けの店」という回答が多かった。さらに、あったらよい施設・設備としては「プリクラ」が、また、あったらよいサービスとしては「学生割引」という回答が多かった。これらの結果から、学生たちは他のいずれの業種よりも「飲食店」を強く望んでいることや、大和田駅前中央商店街の既存店が若者向きでなく、しかも気軽に入りにくいことなどがわかった。

なお、当商店街における優先課題の分析と、今後の方向性についての提案は次稿(第2報)に譲ることとする。

本稿は、本学の平成15年度特別研究費(学術研究助成)の交付を受けた研究の成果をまとめたものである。

参考文献

- 1) 縄田文子「ララはしば商店街(大阪府守口市)における学生ショップ「多趣多彩」の取り組み Part1.商店街との事業系の連携を目指して」、『日本繊維製品消費学会誌』第44巻、第12号、pp.14-19、2003年。
- 2) 縄田文子「ララはしば商店街(大阪府守口市)における学生ショップ「多趣多彩」の取り組み Part2.「多趣多彩」という店づくり」、『日本繊維製品消費学会誌』第45巻、第1号、pp.19-27、2004年。
- 3) 縄田文子「ララはしば商店街(大阪府守口市)における学生ショップ「多趣多彩」の取り組み Part3.商店街との事業系の連携がもたらしたもの」、『日本繊維製品消費学会誌』第45巻、第2号、pp.23-30、2004年。